

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	特別の教科 道徳
-----	----------

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①イラストで授業の流れを示し，児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしている。</p> <p>②教材文の終わりに，「考えよう」と「つながる，広がる」に分けて発問が記載されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①全ての学年で，「問題を見つけて考えよう」のページが設けられ，学習過程の例が示されている。</p> <p>②全ての学年で，「演じて考えよう」のページが設けられ，教材に関連した体験的な学習を通して考えることができるようになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①下学年では「A主として自分自身に関すること」と「C主として集団や社会との関わりに関すること」の教材，上学年では「C主として集団や社会との関わりに関すること」の教材が多い。</p> <p>②各学年でとびらページ・教材2つ・コラムで構成された「いじめユニット」が設けられている。また，各学年で情報モラルに関する教材も設けられている。SDGsに関する教材を高学年で取り扱っている。</p> <p>第4の観点</p> <p>①目次にユニットを設定及び関連項目を配置し，それぞれのユニットに考えるポイントが示されている。教材一覧表には，「視点」「内容項目」「主題名」「関係するテーマ」「他教科との関連」が記載されている。</p> <p>②QRコードは全教材文に用意されている。教材文の後にもQRコードが付いている教材がある。どの教材文にも3枚以上のイラストや写真が載せられている。自然に関する教材には写真が使われている。</p> <p>第5の観点</p> <p>①巻頭の「どんな学びをするのかな」や「ちょっと話し合ってみよう」の中に，考えを伝え合う方法を示し，教材の終わりの「考えよう」の中に，対話するための問いが例示されている。</p> <p>②巻末に，学期末に心に残った題名と内容を記述する欄や道徳で学んだことを振り返って記入する欄が設けられている。</p>

<p>教 出</p>	<p>第1の観点</p> <p>①道徳の学びへの意識を高めながら、見通しをもって学習に取り組めるように「学びのガイダンス」が設けられている。</p> <p>②冒頭で主題に関わる投げかけを行い、教材文の終わりに「考えよう」「深めよう」「つなげよう」に分けて発問が記載されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①全ての学年で、「問題を解決しよう」のコーナーが設けられ、学習過程の例が示されている。</p> <p>②全ての学年で、「やってみよう」のコーナーが設けられ、教材に関連した体験的な学習を通して考えることができるようになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①全体的に「C主として集団や社会との関わりに関すること」の教材が多い。学年が上がるにつれて「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の教材数が増えていく。</p> <p>②全学年で「いじめ」「情報モラル」を重点テーマとして、ユニットが設定されている。また、SDGsに関する教材も用意されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>①目次にユニットが設定され、関連する教材文を並べ2時間続きで1つの内容項目について学習するようになっている。ユニット数が多い。巻末に「内容項目」「主題名」「教材名」「他教科との関連」「SDGsとの関連」が記載されている。</p> <p>②QRコードはどの教材文にも用意されている。後ろにもQRコードが付いている教材文がある。どの教材文にも2枚以上のイラストや写真が載せられている。動きや表情のわかるイラストが多い。</p> <p>第5の観点</p> <p>①巻頭の「道徳ではこんな学び方をするよ」の中に活動のポイントが示され、教材の終わりの「考えよう 深めよう」の中に、対話するための問いの例示がされている。</p> <p>②教材の終わりにマークや記述で学習を振り返る欄が設けられ、巻末に、心に残った教材の記述や1年間の学習を振り返るページが設けられている。</p>
<p>光 村</p>	<p>第1の観点</p> <p>①児童がより主体的に道徳の学びに取り組めるよう、教材への向き合い方のヒントが示されている。</p> <p>②冒頭の教材名の下で発問で、主題に関わる投げかけを行い、教材文の終わりに「考えよう・話し合おう」「つなげよう」「考えるヒント」</p>

	<p>に分けて発問が記載されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①特に第5・6学年で、「考えよう・話し合おう」「つなげよう」のコーナー等が設けられるとともに、学習過程の例が示されている。</p> <p>②全ての学年で「演じて考えよう」のページが設けられ、教材に関連した体験的な学習を通して考えることができるようになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①全体的に「A主として自分自身に関すること」「B主として人との関わりに関すること」「C主として集団や社会との関わりに関すること」Aの教材がバランスよく掲載されている。</p> <p>②2つの教材とコラムでユニット化した「いじめをゆるさない心」が設定され、関連してソーシャルスキルトレーニングのページが設けられている。情報モラルは、教材とコラムをセットで学べる「情報と向き合う」が設けられている。SDGsに関する教材は、6年間で17の目標全てに触れられるよう設定されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>①目次に4つのユニットを設定し、学習のまとまりを示し続け、同じ内容項目について学習できるようになっている。巻末に「内容項目」「主題」「教材名」「他教科との関連」「現代的な諸課題との関わり」が記載されている。</p> <p>②柔らかいタッチの絵が使われている。比較的多く写真が使われている。</p> <p>第5の観点</p> <p>①巻頭の「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」の中に、話し合いのポイントや例等が示されている。教材の終わりの「考えよう・話し合おう」の中に、対話するための問いが例示されている。</p> <p>②学習のまとまりごとに、自分の考えをまとめる欄があり、巻末折込みに、学習を振り返って自己評価をシールで貼ったり学習記録を記入したりする欄が設けられている。</p>
日 文	<p>第1の観点</p> <p>①児童みんなが授業に参加でき、一人一人のよさが引き出され、豊かな学び合いが実現できるよう、学び方がわかりやすく示されている。</p> <p>②冒頭で主題に関わる投げかけを行い、教材文の終わりに「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」に分けて発問が記載されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①全ての学年で、「ぐっと深める」のページが設けられ、問題解決的な</p>

	<p>学習の手法が具体的に示されている。</p> <p>②全ての学年で、「ぐっと深める」のページが設けられ、体験的な学習の手法を具体的に示して考えることができるようにしている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①下学年では「A主として自分自身に関すること」と「C主として集団や社会との関わりに関すること」，上学年では「C主として集団や社会との関わりに関すること」の教材が多い。学年が上がるにつれて「B主として人との関わりに関すること」の教材数が増えてくる。</p> <p>②いじめを直接的，間接的に扱った教材とコラムを組み合わせた「人としての関わりユニット」が設定されている。また，コラム「心のベンチ」が設定され，情報モラルやSDGsについて学ぶことができるようになっていく。</p> <p>第4の観点</p> <p>①目次にユニットが設定され，学習のまとまりを示し続けて学習できるようになっている。中には3教材文連続のものもある。ユニット数，関連教材が多い。巻末に「内容項目」「教材名」「主題名」「テーマ」「他教科との関連」「作者・出典」が記載されている。</p> <p>②QRコードはどの教材文にも用意されている。柔らかいタッチの絵が使われている。写真の使用場面が多い。</p> <p>第5の観点</p> <p>①巻頭の「どうとくの学び方」の中に，話合いの仕方を示し，教材の終わりの「考えてみよう 見つめよう・生かそう」の中に，対話するための問いが例示されている。</p> <p>②学習のまとまりごとに，自分の考えをまとめる欄があり，巻末の「見つけた！ここにもどうとく」として，1年間の学習を振り返るページが設けられている。</p>
光 文	<p>第1の観点</p> <p>①児童が見通しをもって学び，問いを見付け，考えを深め，授業後へと広げていくという一連の流れが示されている。</p> <p>②冒頭の教材文の下の発問で，主題に関わる投げかけを行い，終わりに「かんがえよう」「まとめよう」「ひろげよう」として発問が記載されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①全ての学年で，オリエンテーションの中で道徳と日常生活をつなぐ流れが示されている。各教材で「かんがえよう」「まとめよう」「ひろげよう」のコーナーが設けられ，学習過程の例が示されている。</p>

	<p>②全ての学年で、「みんなでやってみよう！」のページが設けられ、実際の問題場面を想定した体験的な学習を通して考えることができるようになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①重要課題として「いじめ、命、学年独自主題」を掲げており、「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の教材が多い。</p> <p>②「いじめを生まない心」を重点主題とし、とびらページと教材が掲載されている。全学年に情報モラルのコラムが設けられている。ジェンダーについての教材も掲載されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>①目次にそれぞれの内容項目に従ってユニットが設定してあるが、何についてかは記載がない。巻末には「内容項目」「教材名」「現代的課題」「他教科」「関連性のある価値項目」が記載されている。</p> <p>②内容に合わせて、柔らかいタッチ、明るい配色等の絵が使われている。比較的多くの写真が使われている。</p> <p>第5の観点</p> <p>①巻頭の「話し合ってみよう」の中に、「ことばのカード（対話ツール）を例示して話し合いの仕方が説明され、教材の終わりの「考えよう まとめよう ひろげよう」の中に、対話するための問いの例示がされている。</p> <p>②巻頭に、ノートのまとめ方や振り返りの書き方が示され、巻末折込みに、「まなびの足あと」として、授業を振り返るページが設けられている。</p>
学 研	<p>第1の観点</p> <p>①児童の発達段階に合わせた書き方で道徳の学習の進め方が示されている。</p> <p>②教材文の終わりに「考えよう」として発問が記載されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①全ての学年で、「深めよう」のページが設けられ、学習過程の例が示されている。</p> <p>②全ての学年で、「心のパスポート」のページが設けられ、教材に関連した体験的な学習を通して考えることができるようになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①「いのち」を最重要テーマとして、内容項目「生命の尊さ」の教材を全学年で3つ掲載している。</p>

②いじめ防止に関する教材が配置されている（その教材には「いじめ防止マーク」が掲載されている）。情報モラルを系統的に学習できる構造となっている。SDGsに関連する教材を取り扱っている。

第4の観点

①目次にユニットが作ってある。ユニット数が少ない。巻末に「内容項目」「教材」「主題名」「デジタルコンテンツ」が記載されている。

②場面の感じに合わせたタッチの絵が使われている。全体的に色が薄い。写真と絵を織り交ぜて多くの教材文で使われている。

第5の観点

①巻頭の「どうとくの学習がはじまるよ」の中に、考えを進める方法が示され、教材の終わりの「考えよう」の中に、対話するための問いの例示がされている。

②学習のまとめりごとに、自分の考えをまとめる欄があり、巻末に、「つなげよう ひろげよう」として、1年間の学習を振り返るページが設けられている。